http://www.ne.jp/asahi/chonan/kemkyu/
email : ch0330@support.email.ne.jp

全国長南会通信 61号

事務局 : 300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930 長南秀則 TEL/FAX XXXXXXXXXXXXX

発行日 : 平成 30 年 12 月 20 日

義経の親衛隊 長南忠春

義経が平家追討の大将を命ぜられ、次々に平家の軍勢を破り都落ちした平家を追って西へ進軍したとき、義経のそばには弁慶、伊勢三郎らと共に長南忠春の姿があった。

1184年には、有名な一ノ谷の奇襲作戦で、鵯越（ひよどりごえ）の逆落しといって高い崖の上から、崖の下の海岸に陣をはっていた平家の後へかけおり、平家を散々に破ったときも、忠春は大活躍した。

そして翌1185年の3月に、下関の東の壇ノ浦で、源平最後の決戦が行われるのである。

源氏の武者達は、もともと騎馬戦が得意で海戦は戦ったことがなかったので、追いつめられて必死となった平家の反攻には、かなり悩まされた。

少年の頃、京都の鞍馬寺で、天狗、実は源氏の武士を相手に武術をおぼえ、京の五条の橋の上では弁慶を手玉にとって降参させた身の軽い義経は、舟から舟へ飛び移りながらよく戦った。

忠春はどうかというと同じようで、義経が八槽の舟を飛んだのに対して九槽飛んだという話が、山形県大蔵村の長南氏に昔から伝わっている。なにしろ主人より多く飛んだということは自慢すべきことではないと、密かに伝えてきたので知る人は少ない。

壇ノ浦の戦いでは、平家第一の武勇にすぐれた平教経（たいらののりつね）は義経を追いかけまわした。

義経に逃げられた教経は、近くにいた源氏の武者二人を両腕にかかえて、海に飛び込んだというのは有名な話である。

壇ノ浦の戦いは、結局平家が敗れ、義経は九州

の宮崎県の奥まで平家を追ってゆき、平家を滅ぼした。有名な「ひえつき節」という歌はこの時の歌をうたったものである。

頼朝、義経兄弟が力を合わせて戦ったのはこれまでで、平家が滅びると仲たがいをして頼朝は義経に射手をさしむけ、義経は変装したりして各地を逃げまわり、やっとの思いで再び平泉へ逃げ込んだ。忠春もこれについていったのであった。

ほっと一息ついたのもつかのまで、頼朝は藤原泰衡（ふじわらのやすひら）に仕向けて義経を攻め自殺させてしまう。その泰衡も数ヶ月のうちに頼朝に殺されてしまう。

しかし義経は、実は死なずに北海道に行ったとか、中国大陸に行ったという伝説が東北地方から北海道の各地に伝わる。

中村 就一　長南氏の研究より抜粋

ご先祖様が源義経の家臣だった山本良子さんの紹介

10 月半ば、東京の山本良子さんから電話があり、錦絵の注文ということだった。私の個人所有のほかには在庫がないと思っていたが、自宅の押入れを探してみたところ、ちょうど１セットが見つかったので、送ることができた。山本さんには、どのような理由で錦絵を注文するのかをたずねたところ、興味深い答えが返ってきた。

彼女は、東京在住だが、彼女の実家が岩手県宮古市田老にあり、その裏山は「吉内屋敷」と呼ばれ、源義経一行が訪れたとされる屋敷跡があると云う。数十年前まで建物があり、その子孫が住んでいたそうだ。吉内とは、義経が京都から北へ向かう際に、案内人のような役目をした金売吉次と言われてる方の弟吉内である。山本さんによると、正史では、義経は平泉で亡くなったとされており、その後の足取りは伝説とされているが岩手、青森その他各地には、伝説として片づけるには不自然な言い伝えや記録等が残っている。それぞれを繋げると、一つのルートとなり、これが義経北行ルートとされるものだ。「義経は平泉で死なずに生きていた」という説は　実は鎌倉期より様々な書物に記されてきた。また、彼女は祖父母や母から、吉内家との様々な関わりの話を聞いてきたこともあり、吉内家や義経のことは身近に感じていたと云う。

青宿　談笑亭にて

彼女は、家計図作りを始める等、先祖様のことを調べていたが、大半の家系もそうだが、江戸時代末期までは遡れるが、それ以前はわからない。お寺の火災や津波などで記録などは今はない。そこで、屋敷跡を探してみると、江戸時代と思われる古いお墓が見つかったそうである。

彼女のご先祖が義経の家来であったということについて、詳しく調べていることもあって、田老に行った際、お寺で義経のことを聞いてみたところ、住職から「何年か前に、長南さんという方達がこられて、先祖様が義経の家来で、田老で亡くなったという記録があるそうで、供養にこられましたよ」と言われたので、それから、長南会のホームページを見て、同じ義経の家来の長南忠春のことを知り、錦絵を注文するにいたったということである。

秀則　山本良子さん　照光（11/18 談笑亭にて）

その後、11 月に入り、山本良子さんから茨城県の青宿に来てお話が聞きたいという電話があり、長南照光副会長に同席していただき、談笑亭において、長南会の活動のことや、山本さんの先祖調べのこと、忠春の描かれている錦絵の入手のことなどを話し合った。錦絵はいずれも歌川芳虎の作品で、江戸末期から明治初期のものだと思われるが、いずれのものにも義経と共に、家臣である武蔵坊弁慶他名だたる武将の中に長南忠春が描かれてある。以前にも質問したが、この時代に、これらの元になる文献がありそれに基づいて描かれたものであろうと思われるが、それが何か良くわかっていない。長南会所有の錦絵の在庫はなくなってしまったので、これを機会にデータ化して、今回号にカラーでご紹介する。今回の全国長南会通信 61 号は、錦絵の疑問を再度皆さんに考えていただく号としたい。

3　一の谷の戦い 鵯越えの図（協力 福島市 長南要氏）

義経蝦夷渡航図（協力　宮城県鳴瀬町　長南洋司氏）

一の谷義経攻落しの図（協力　鶴岡市　長南真啓氏）

壇ノ浦合戦の図（協力　与野市　長南宏治氏）

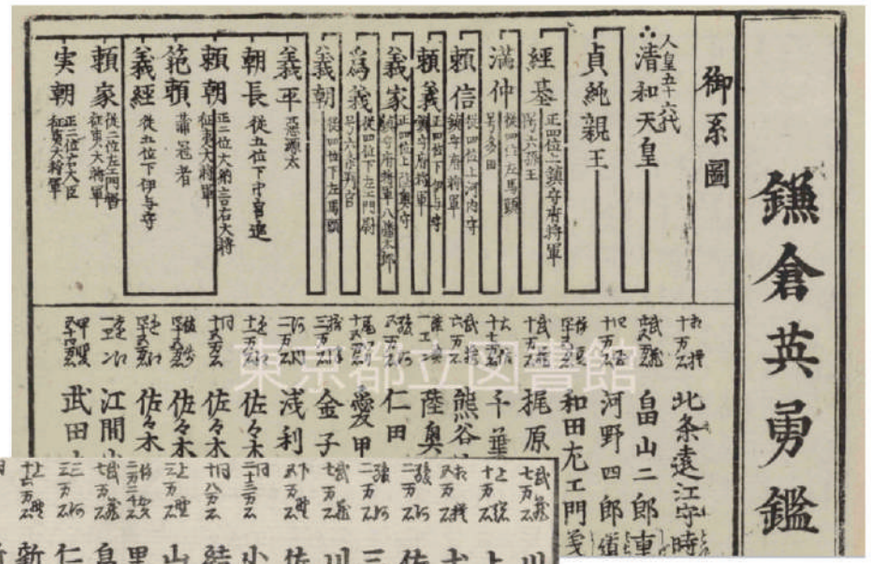
義経平家追討出帆の図（協力　青宿　長南照光氏）

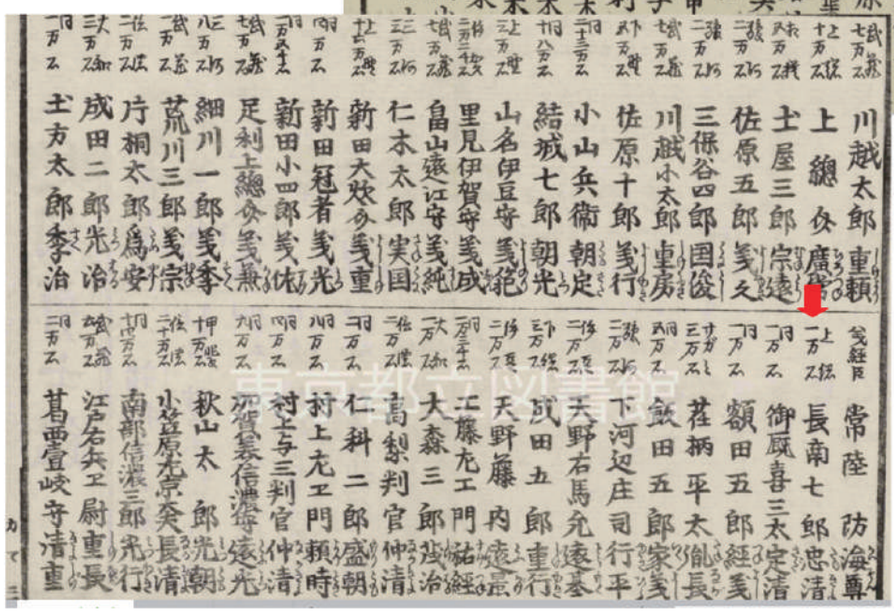
源平壇ノ浦大合戦の図（協力　青宿　長南照光氏）

義経蝦夷渡航の図（協力　長南俊春氏）

鎌倉大評定（協力 名張市 江南正氏）

このページの鎌倉評定の錦絵と鎌倉英勇鑑には忠春の弟「忠清」が描かれている。上総の介の称号があるので、現在の千葉県県中央部の官職であったか?





長南秀則様 長南照光様

先日は、突然の連絡にも関わらず お忙しい中 お時間を作っていただき誠にありがとうございました。お話を伺い、また貴重な錦絵を拝見させていただき感激でした。また、ありがたく賜りました研究史も拝読しております。忠春さんが田老で終生を迎えられた情報に、長南会さんがどのようにたどり着いたのか気になっていました。

忠春さんについて書かれた古文書を探すべく 山田町や宮古市の市史編纂室に問い合わせてみましたが関係する資料には心あたりがないとのこと、震災の影響もあり古文書を新たに探し当てるのは不可能に近いかと思っております。

長南研究史によりますと、船本音羽さんが中村さんに宛てた手紙に「親友の歌人で歴史家としても秀れた岩手県山田長の小林喜代治君(山田の農協預金会長で一昨年故人となる)が調査したところによると・・・」と記載されており、知りたかったことが記してありました。この研究史が1987年には発行されているということですからもう随分前になりますが、私が岩手に住んでいる頃にも、このように大事な情報に気付かずに過ごしてきたことは、残念でなりません。しかし今こうして、貴重な情報に触れることができるのも、研究してこられた小林さん、船本さん、中村さん、長南会の皆様のおかげと感謝しております。

宮古市田老三王岩

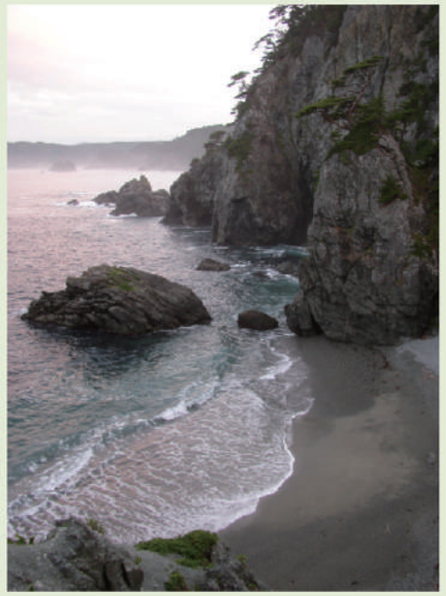
忠春の墓

今 1100ページにも及ぶ研究史を拝読しているところでありますが、長南家の長い歴史を尊び思いを馳せております。

細部には忠春にまつわる話として、「藤沢衛彦著(上総の民話)には、庁南秀胤が反乱に関わり亡び(1247)城をとりあげられた時に来た軍勢の中に長南忠春の子孫がいたと書いてあるが、義経討死が1189年でその後58年ほどであるから時代的にはともかく、岩手県からそのような軍勢が来たものかどうか。研究の要がある、(船本音羽)」とあり、大変興味深いです。沿岸沿いを北行し 各地に定住していった方々もいて 移動手段として海路も利用し、岩手～関東の往来もあったことを考えると、納得できる話だなと思います。

先日、長南会の皆様が 平成18年7月7日 長南忠春800年供養にいらした田老青砂里の 忠春さんのお墓へ弟(清光)と行って参りました。

船本音羽さん奥様サヨさん祖父の生まれ家でもあります旧家万助大家の方が不在だったため 長南通信25の 写



宮古市青砂利海岸

真を頼りに、お墓を探しました。辺りには非常に古いお墓が多く、震災の影響でしょうか、倒れたままになっている墓石が多くありました。

長南忠春さんとその周辺の墓石がありませんでしたので、今一度万助大家さんの家を訪ねました。幸運にもいらしたお家の方に伺うと、「古い墓石がいくつかあったものをまとめて改葬しました」とのことで その日はもう暗くなってしまったので、後日姉(純子)が改めて詣り、墓石の裏に記載された文言を写真におさめました。

忠春さんが生きた時代、また田老に来られてから約800年の中で継がれてきた数々の点が少しでも繋がり、関わってきた皆様の魂が安らかでありますようにと祈っております。

12月初旬に、長福寿寺の船本音羽さんのお墓参りに伺おうと思っております。命の時を繋いでこられた皆様方に感謝申し上げます。

2018年11月25日 山本良子

忠春 800 年祭(写真はいずれも 2006 年)

平泉義経堂にて

本年も大変お世話になりました。

皆様には、良い年をお迎えするようお祈りしております。

寒さきびしくなりますが、お体を大切に、お元気でお過ごしください。

事務局 長南秀則

宮古市田老防潮堤の説明を受ける